

■ 編集後記

多くの論文が投稿され喜ばしい限りです。論文はいたずらに長くなく、論注明快に記述したいものです。

(久保田 稔)

21巻3号が発行され、これで21巻は完結となった。研究論文の査読となると小説を読むようなわけには行きません。一編の論文を査読するには多くの時間を割かなければならず、これが編集委員としての悩みです。しかし、ひとの論文から学ぶことも多く、それがせめてもの慰めです。(佐藤 方信)

1996年12月ものこりわずかとなりました。本誌21巻3号も会員の皆様のご協力により投稿が一挙に原著9編、症例報告1篇の計10篇といううれしい編集作業のうちに本号をまとめることができました。本誌は会員の皆様のものです。とはいいながら会の運営上、経済的に苦しい事態になり、次年度より会費の値上(年会費5,000円)が決りました。本誌においても22巻1号より印刷頁の学会負担分を7頁より1頁減の6頁になりました。投稿者の負担が増すことにはなりますが、ご理解のほどお願いいたします。22巻1号も本号に増しての投稿を希望いたします。(金子 克)